

る人は少ないわけで、コンゴの一般人の日常の話を書いてほしいということで、写真とともに連載してくれている。あと何回続くのかな。帰国するまでつづけてほしいんだけど。

黒岩 今年の十二月に政変があるらしく、そこまで居たくないとか書いてあります。

☆「葉書題詠シリーズ」「新・葉書題詠シリーズ」「新々葉書題詠シリーズ」「歌の十字路」「私の初恋」「私の父：私の母」「佐佐木幸綱の一首」

幸綱 次は森屋さんの担当分です。

森屋 二〇〇〇年一月から三月まで、三か月分が「葉書題詠シリーズ」で、その後、二〇〇〇年七月から「新・葉書題詠シリーズ」として「都道府県をうたう」が、二十四回、連載されました。二〇〇二年七月から二〇一六年七月号の現在に至るまで「新々葉書題詠シリーズ」ということで、一七三回、連載が続いています。

「新々葉書題詠」の題を見ましたら、動詞が三十九回で、全体の二割くらいです。から意外と少ないですね。「言葉」という

題が四回、「笑う」「鳥」「遊ぶ・遊び」が三回ずつ出ています。あとは「犬、猫の歌」が二回ずつありました。いろいろな方が選評をされているので、そこも面白く読みました。

「歌の十字路」は二〇〇〇年一月からスタートしました。日付のあるトピックス的な短歌エッセイです。二〇〇四年五月まで、四年半で九十八名が登場しました。テーマとして多かったのは戦争、地震や豪雨などの災害、原発、事件事故で、著名人が亡くなったことを挙げていらっしやる方も多かったです。意外と、子どもが生まれたとか、夫がどうしたとか、そんな個人的なトピックスが少なかつた点も挙げられると思います。

二〇〇四年七月からスタートした「私の初恋」には一五二名参加されました。「初恋」だから登場は一回だけと認識していましたが、なぜか奥田亡羊さんだけは二回登場しています。奥田さんは二回初恋をされたんだと認識を改めました(笑)。

奥田 初恋は五回ぐらいたったかなあ(笑)。

森屋 その後、半年間、お休みがありました。二〇一一年七月から現在まで、「私

の父：私の母」の連載です。これまでに九十六名、参加されています。お父さんの歌が五十七名、お母さんの歌が三十八名、両方出された方が一名です。六割強がお父さんだったというのが私にはちよつと意外でした。

谷岡 女性の書き手が多いからじゃないですか。

森屋 ああ、それがあられるかもしれません。

あと、「佐佐木幸綱の一首」も調べてみました。二〇〇〇年から一九六回、掲載されています。一一〇年記念号、そして由幾先生が亡くなられたときの二回、合計三回、休載があっただけで、あとは毎月、載っています。スタートして十二年間、一四一回は「心の花」の方が書いておられます。その後、四年七か月、五十五回は「心の花」以外の方が書いていらっしやいます。掲載歌を見えますと、いちばん多いのが四回の「君の「われ」に私の「われ」を重ねつつ待っていたんだ 百年の船」です。三回は四首ありまして、「ゆく秋の川びんびんと冷え緊まる夕岸を行き鎮めがたきぞ」は帰るぞ俺の明日へ 黄金の疲れに眠る友よおやすみ」へのぼり坂のペダル踏みつつ